

## 令和2年度 発達心理臨床研究センター主催行事報告

### 1. はじめに

令和2年度は下記の通り、行事を企画・実施したので、概要とまとめを報告する。

### 2. 臨床心理学講演会

日時・方法：2021年2月26日（金） 17:30～19:00 Zoomによるオンライン開催

参加者：全85名 [学内参加者：75名、学外参加者10名]

演題：“特別でない”特別支援教育～仲間をつなぐ「関係支援」って何だろう？～

講師：拝野 佳生（伊丹市立稲野小学校 主幹教諭（臨床心理士／公認心理師））

講師の拝野佳生先生は、長年、兵庫県内の小学校・特別支援学校で教員を続けてこられ、現在は伊丹市立稲野小学校の主幹教諭としてご活躍されている。臨床心理学、教育相談、スクールカウンセリング、特別支援教育がご専門であり、本学の集中講義においても非常勤講師としてご尽力いただいている。

学校現場で友達との関係づくりに力点を置いた「関係支援」という実践を重ねてこられ、その具体的な実践事例等をこれまでも様々な機会でご発表されている。本講演では、「学級づくりのABC」にも触れながら、多くの実践事例の紹介をもとに「関係支援」の必要性とその在り方について大変わかりやすくお話しいただいた。参加者からは以下のような感想が得られた。

- 子どもたちに具体的にどのようなやり方で支援を行っているかというのを写真付き（予定の表やロッカー内の荷物の置き方の図など）で実際に見せていただくことで理解がしやすかった。
- 「Aさんを変える」という発想ではなく、一緒に教室で過ごす中でみんなの「Aさんに対する見方を変えていく」という視点は、インクルーシブ教育を進める上でとても重要な視点であり、子どもたち全体の成長にもつながっていると感じた
- 関係支援を継続して行うことにより、生徒全体に乗り越えていく力が付いていくのだと思った。
- 子どもたちだけではなく、大人に対しても社会全体に対してもこのような支援の考え方を持っておきたいと思った。
- 自分たちセラピストの中にある「この子のために何とかしないと！」という焦りを捨てて、子どもたちがどんな力を秘めているのか、どうすればその力を発揮できるのかを考えていきたいと思った。
- 今回は学校での関係支援だったが、講演会でお聞きした内容は、自助グループやグループセラピーなどにも活用できる部分がたくさんあると感じた。

他にも同様の感想を多く得ることができ、参加者にとって新たな気づきを得られた有意義な時間になったことが窺える。

本年度は新型コロナウイルス感染症対策でオンラインでの開催となった。来年度も開催方法やテーマを工夫しながら、臨床心理学コースや他コースの大学院生、修了生、あるいは地域の専門家に対する学習の機会を提供していく計画である。



（講演資料より）